

令和元年度
東京都八丈町
財務書類
(統一的な基準)

令和3年3月

目次

I. 本町の財務書類の公表について	1
1. 地方公会計制度の概要.....	1
2. 八丈町の取り組み.....	2
3. 統一的な基準の特徴.....	2
4. 作成基準日.....	3
5. 作成対象とする範囲.....	3
6. 財務書類間の相互関係図.....	4
II. 総務省様式による財務書類の概要及び指標分析	5
1. 主要数値推移.....	5
令和元年度 財務書類に関する情報①.....	5
2. 指標一覧.....	5
(1) 令和元年度 財務書類に関する情報②（一般会計等に係る指標）.....	5
(2) 令和元年度 財務書類に関する情報③（一般会計等・全体・連結に係る指標）...5	
(3) 指標の説明.....	5
III. 本町の財務書類について	6
1. 貸借対照表.....	6
(1) 令和元年度貸借対照表（令和2年3月31日現在）.....	7
(2) 一般会計等貸借対照表の2期比較.....	9
2. 行政コスト計算書.....	13
(1) 令和元年度行政コスト計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）.....	13
(2) 一般会計等行政コスト計算書の2期比較.....	14
3. 純資産変動計算書.....	16
(1) 令和元年度純資産変動計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）.....	16
(2) 一般会計等純資産変動計算書の2期比較.....	17
4. 資金収支計算書.....	19
(1) 令和元年度資金収支計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）.....	19
(2) 一般会計等資金収支計算書の2期比較.....	20
IV. 参考資料	22
1. 一般会計等財務書類4表.....	22

I. 八丈町の財務書類の公表について

1. 地方公会計制度の概要

国・地方公共団体の公会計制度は、これまで現金収支に着目した単式簿記が採用されてきました。ところが単式簿記は、発生主義の複式簿記を採用する企業会計と比べ、過去から積み上げた資産や負債などの状況を把握できないこと、また減価償却や引当金といった会計手続きの概念がないといった問題点が指摘されていました。

そのような中総務省では、地方の資産・債務改革の一環として、自治体の資産や債務の管理に必要な公会計をさらに整備することを目的に、「新地方公会計制度研究会」を発足させました。同研究会からは平成18年5月に「新地方公会計制度研究会報告書」が公表され、続けて同年8月には同じく総務省から「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」が示されました。

この指針では、地方公共団体の公会計の整備について、国の作成基準に準拠した新たな方式による財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）の作成及び開示を行うよう、地方公共団体に対して要請を行いました。

この要請に基づき各地方公共団体では公会計の整備を着々と進めていきましたが、総務省は新地方公会計制度の導入にあたり、「総務省方式改訂モデル」と「基準モデル」の二つのモデルを示していました。東京都は東京都方式、大阪府は大阪府方式とありましたが、複数あることで他団体比較ができない等の問題が生じていたため、平成25年8月に「研究会中間とりまとめ」が公表され、平成26年3月に「地方自治体における固定資産台帳の整備等に関する作業部会報告書」、「財務書類作成基準に関する作業部会報告書」が公表されました。

そして、平成27年1月に統一的な基準による地方公会計マニュアルが公表され、一部事務組合を含むすべての地方公共団体へこの統一的な基準での財務書類を平成30年3月までに作成するよう要請されました。

2. 八丈町の取り組み

こうした状況の中、八丈町では、平成29年度決算から町全体の財務書類を作成しています。

このことにより、現金の取引情報にとどまらず資産や負債の状況も把握できるようになりました。住民にとっても八丈町の財務状況がどういったものであるかを判断することが出来る材料の1つになっているものと考えられます。

3. 統一的な基準の特徴

統一的な基準による財務書類は、主に以下のような特徴を有しています。

- ① 会計処理方法として複式簿記・発生主義会計を採用し、一般会計等の歳入歳出データから複式仕訳を作成することにより、現金取引（歳入・歳出）のみならず、すべてのフロー情報（期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動）及びストック情報（資産・負債・純資産の期末残高）を網羅的かつ誘導的に記録・表示すること。
- ② 「経済財政運営と改革の基本方針2014～デフレから好循環拡大へ～」（平成26年6月24日閣議決定）において、「各地方公共団体の財政状況が一層比較可能となるよう、統一的な基準による地方公会計の整備を促進する。あわせて、ICTを活用して、固定資産台帳等を整備し、事業や公共施設等のマネジメントも促進する」とされたことを踏まえ、決算情報（決算分析のための情報）の作成・開示のみならず、事業や公共施設等のマネジメントの促進をも可能とする勘定科目体系を備えていること。
- ③ 各地方公共団体が、統一的な基準による財務書類を作成・開示することにより、一般的な財務状況をより多面的かつ合理的に明らかにすることを通じて、住民や議会等に対するより一層の説明責任を果たすとともに、資産債務改革や予算編成を含む行財政改革に積極的に活用され、限られた財源を「賢く使うこと」が期待されること。

4. 作成基準日

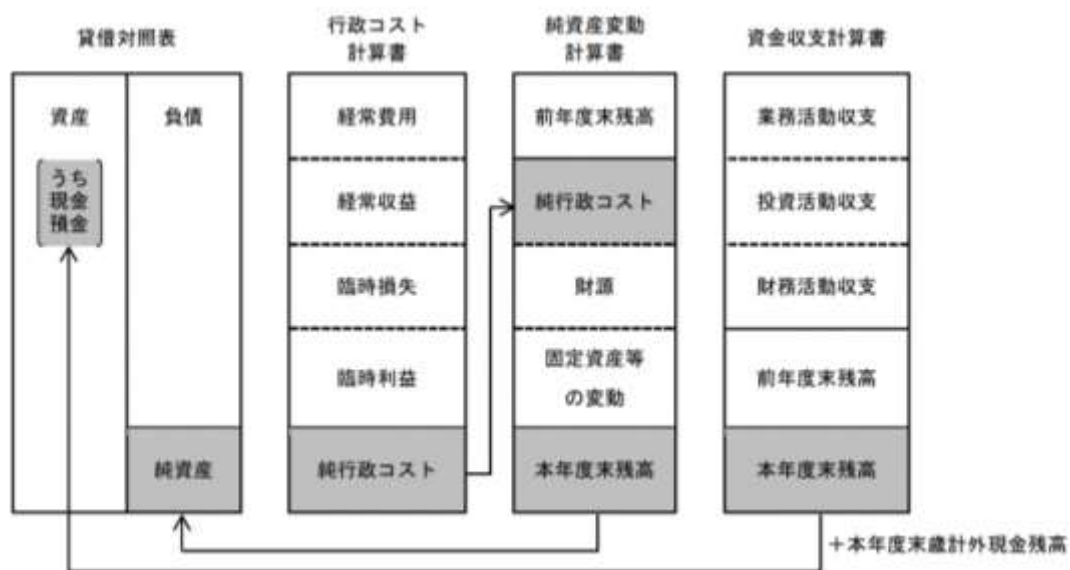
作成基準日は、各会計年度の最終日となります。今回の令和元年度決算分では令和2年3月31日となります。なお、地方公共団体に設けられている出納整理期間（翌年度4月1日から5月31日までの間）の収支については、基準日までに終了したものとみなして取り扱っています。

5. 作成対象とする範囲

令和元年度 連結対象範囲

区 分		名 称
連結	一般会計等	・一般会計
	特別会計	・国民健康保険特別会計 ・介護保険特別会計 ・後期高齢者医療特別会計 ・浄化槽設置事業特別会計
	公営企業会計	・水道事業会計 ・一般旅客自動車運送事業特別会計 ・病院事業会計
	一部事務組合等	・東京都議会議員公務災害補償等組合 ・東京都市町村職員退職手当組合 ・東京都島嶼町村一部事務組合 ・東京市町村総合事務組合 ・東京都後期高齢者医療広域連合

6. 財務書類間の相互関係図



[出典:総務省「財務書類作成要領」]

- ①貸借対照表の資産のうち、「現金預金」の金額は資金収支計算書の本年度末現金預金残高と一致します。
- ②行政コスト計算書の「純行政コスト」は、純資産変動計算書の「純行政コスト」と一致します(純行政コストは純資産の減少要因となる為、純資産変動計算書上はマイナス表記となります)。
- ③貸借対照表の純資産合計の金額は、純資産変動計算書の本年度純資産残高と一致します。

II. 総務省様式による財務書類の概要及び指標分析

1. 主要数値推移

令和元年度 財務書類に関する情報①

別紙 1 参照

2. 指標一覧

(1) 令和元年度 財務書類に関する情報②（一般会計等に係る指標）

別紙 2 参照

(2) 令和元年度 財務書類に関する情報③（一般会計等・全体・連結に係る指標）

別紙 3 参照

(3) 指標の説明

住民一人当たり資産額	資産額を住民基本台帳人口で除して住民一人当たり資産額とすることにより、資産形成度について住民等にとってわかりやすい情報となります。また、他団体との比較が容易になります。
歳入額対資産比率	当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。
有形固定資産減価償却率	有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。
純資産比率	純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動したことを意味します。例えば、純資産の減少は、現世代が将来世代にとっても利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代に負担が先送りされたことを意味し、逆に、純資産の増加は、現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味すると捉えることもできます。
将来世代負担比率	社会資本等について将来の償還等が必要な負債による形成割合（公共資産等形成充当負債の割合）を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。
住民一人当たり行政コスト	行政コスト計算書で算出される行政コストを住民基本台帳人口で除して住民一人当たり行政コストとすることにより、地方公共団体の行政活動の効率性を測定することができます。また、当該指標を類似団体と比較することで、当該団体の効率性の度合いを評価することができます。 なお比較に際しては、住民一人あたり行政コストについては、地方公共団体の人口や面積、行政権能等により自ずから異なるべきものであるため、一概に他団体と比較するのではなく、類似団体と比較すべきことに留意する必要があります。
住民一人当たり負債額	負債額を住民基本台帳人口で除して住民一人当たり負債額とすることにより、持続可能性について住民にとってわかりやすい情報となります。また、他団体との比較が容易になります。
基礎的財政収支 (プライマリーバランス)	資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く）、及び投資活動収支の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となります。当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営であるといえます。
受益者負担比率	行政コスト計算書の経常収益は、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額であることから、これを経常費用と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を示す指標となります。これを経年比較したり、類似団体比較したりすることにより、当該団体の受益者負担の特徴を把握することができます。

Ⅲ. 八丈町の財務書類について

1. 貸借対照表

地方公共団体の決算書は、1年間でどのような収入がいくらあり、その収入を何にいくら使ったか、という単年度の状況は把握できますが、現在どれだけの資産や負債があるのか、という情報は把握ができません。

この貸借対照表では、基準日現在でどれだけの資産や負債があるのかを把握できます。

「資産」は、保有する資産の内容や額が記載してあります。

「負債」及び「純資産」は、「資産」を形成するためにどのような財源措置をしてきたかを表しています。

「負債」は、今後、負担すべき債務であることから将来世代に対しての負担ととらえることができ、一方で、「純資産」は、今後負担する必要性のない資産、言い換えればこれまでの世代や現在の世代、または国、県が負担した分となります。

(1) 令和元年度貸借対照表（令和2年3月31日現在）

貸借対照表

単位：千円

資産の部	一般会計等	全体	連結
1.固定資産	26,176,752	34,283,433	35,791,578
有形固定資産	23,233,372	31,441,266	32,820,980
（1）事業用資産	18,474,626	20,599,616	21,906,589
（2）インフラ資産	4,574,716	9,573,494	9,573,494
（3）物品	184,030	1,268,156	1,340,897
無形固定資産	—	2,331	3,149
投資その他の資産	2,943,379	2,839,836	2,967,449
（1）投資及び出資金	473,694	330,184	330,184
（2）投資損失引当金	—	—	—
（3）長期延滞債権	21,346	40,158	40,319
（4）長期貸付金	—	—	—
（5）基金	2,451,057	2,474,638	2,602,089
（6）その他	—	—	—
（7）徴収不能引当金	△ 2,718	△ 5,144	△ 5,144
2.流動資産	1,755,021	2,906,270	3,173,235
（1）現金預金	230,269	1,119,847	1,152,137
（2）未収金	10,649	256,790	256,856
（3）短期貸付金	—	—	—
（4）基金	1,515,500	1,515,500	1,750,109
（5）棚卸資産	—	18,133	18,133
（6）その他	—	59	59
（7）徴収不能引当金	△ 1,397	△ 4,060	△ 4,060
3.繰延資産	—	—	—
資産合計	27,931,773	37,189,704	38,964,813
負債の部	一般会計等	全体	連結
1.固定負債	6,986,552	13,779,700	13,977,646
（1）地方債	5,759,022	9,026,975	9,205,118
（2）長期未払金	—	—	1
（3）退職手当引当金	1,227,530	1,353,088	1,372,890
（4）損失補償等引当金	—	—	—
（5）その他	—	3,399,637	3,399,637
2.流動負債	833,195	1,494,250	1,541,679
（1）1年以内償還予定地方債	694,511	1,003,767	1,048,949
（2）未払金	386	308,286	308,286
（3）未払費用	—	—	—
（4）前受金	—	34	34
（5）前受収益	—	—	—
（6）賞与等引当金	83,813	124,725	126,899
（7）預り金	54,485	57,438	57,511
（8）その他	—	—	—
負債合計	7,819,748	15,273,950	15,519,325
純資産の部	一般会計等	全体	連結
（1）固定資産等形成分	27,692,252	35,798,933	37,541,687
（2）余剰分（不足分）	△ 7,580,227	△ 13,883,180	△ 14,096,199
（3）他団体出資等分	—	—	—
純資産合計	20,112,025	21,915,754	23,445,488
負債及び純資産合計	27,931,773	37,189,704	38,964,813

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

全体財務書類は一般会計等に地方公営事業会計を加えた財務書類です。
一般会計等と全体を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- インフラ資産の差額4,998,778千円
 - ・・・主に水道事業会計の管渠等の工作物4,432,816千円。
- 固定負債のその他の差額3,399,637千円
 - ・・・主に水道事業会計の長期前受金2,883,647千円。
- 地方債の差額3,577,209千円（流動負債・固定負債合計）
 - ・・・以下の特別会計で地方債を発行しています。

水道事業会計	2,233,764千円
病院事業会計	1,220,709千円
一般旅客自動車運送事業会計	11,209千円
浄化槽設置管理所行特別会計	109,579千円

連結財務書類は全体財務書類に関連団体（一部事務組合、広域連合、地方独立行政法人、地方三公社、第三セクター等）を加えた財務書類です。

全体と連結を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- 事業用資産の差額1,306,973千円
 - ・・・主に東京都島嶼町村一部事務組合分1,248,042千円。

(2) 一般会計等貸借対照表の2期比較

貸借対照表

単位：千円

資産の部	R1年度末	H30年度末	差額
1.固定資産	26,176,752	26,049,359	127,393
有形固定資産	23,233,372	23,209,244	24,128
(1) 事業用資産	18,474,626	18,509,935	△ 35,309
(2) インフラ資産	4,574,716	4,534,587	40,130
(3) 物品	184,030	164,723	19,307
無形固定資産	—	—	—
投資その他の資産	2,943,379	2,840,115	103,265
(1) 投資及び出資金	473,694	473,694	—
(2) 投資損失引当金	—	—	—
(3) 長期延滞債権	21,346	30,475	△ 9,129
(4) 長期貸付金	—	—	—
(5) 基金	2,451,057	2,340,057	111,000
(6) その他	—	—	—
(7) 徴収不能引当金	△ 2,718	△ 4,111	1,394
2.流動資産	1,755,021	1,686,195	68,826
(1) 現金預金	230,269	157,612	72,657
(2) 未収金	10,649	15,110	△ 4,461
(3) 短期貸付金	—	—	—
(4) 基金	1,515,500	1,515,500	—
(5) 棚卸資産	—	—	—
(6) その他	—	—	—
(7) 徴収不能引当金	△ 1,397	△ 2,028	631
資産合計	27,931,773	27,735,553	196,220
負債の部	R1年度末	H30年度末	差額
1.固定負債	6,986,552	7,279,662	△ 293,109
(1) 地方債	5,759,022	6,124,391	△ 365,368
(2) 長期未払金	—	—	—
(3) 退職手当引当金	1,227,530	1,155,271	72,259
(4) 損失補償等引当金	—	—	—
(5) その他	—	—	—
2.流動負債	833,195	808,813	24,383
(1) 1年以内償還予定地方債	694,511	697,639	△ 3,127
(2) 未払金	386	676	△ 290
(3) 未払費用	—	—	—
(4) 前受金	—	—	—
(5) 前受収益	—	—	—
(6) 賞与等引当金	83,813	83,398	415
(7) 預り金	54,485	27,100	27,384
(8) その他	—	—	—
負債合計	7,819,748	8,088,474	△ 268,727
純資産の部	R1年度末	H30年度末	差額
(1) 固定資産等形成分	27,692,252	27,564,859	127,393
(2) 余剰分（不足分）	△ 7,580,227	△ 7,917,780	337,553
純資産合計	20,112,025	19,647,079	464,946
負債及び純資産合計	27,931,773	27,735,553	196,220

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

財務書類は、前年度や過去の複数期間と比較して異常値を把握し、当該異常値の原因を明らかにする過程で、様々な課題等が浮き彫りになる事があります。

財務書類が利害関係者に対する説明資料である以上、各数値の増減について合理的に説明する必要があります。

一般会計等平成30年度末残高と令和元年度末残高とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 基金の増加111,000千円
 - ・・・公共施設整備基金、ふるさと創生基金の積立によるもの。
- 地方債の減少365,658千円（固定負債・流動負債合計）
 - ・・・329,143千円の新規発行及び、697,639千円の償還による純減。

用語解説

固定資産	
事業用資産	公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産 (例:庁舎、ごみ処理施設、し尿処理施設、学校など)
インフラ資産	社会基盤となる資産 (例:道路、橋、公園、上下水道施設など)
物品	車輛、物品、美術品など
無形固定資産	ソフトウェアなど
投資及び出資金	有価証券、出資金、出捐金など
投資損失引当金	連結団体に対する出資にかかる実質価額が著しく低下した場合に計上
長期延滞債権	滞納繰越調定収入未済分
長期貸付金	自治法第 240 条第 1 項に規定する債権である貸付金 (流動資産に区分されるもの以外)
基金	流動資産に区分される以外の基金(減債基金、その他の基金)
その他	上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
徴収不能引当金	未収金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額(不納欠損額)を見積もったもの(固定資産分)
流動資産	
現金預金	手許現金や普通預金など
未収金	税金や使用料などの未収金
短期貸付金	貸付金のうち、翌年度に償還期限が到来するもの
基金	財政調整基金、減債基金のうち流動資産に区分されるもの
棚卸資産	売却目的保有資産
その他	上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
徴収不能引当金	未収金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額(不納欠損額)を見積もったもの(流動資産分)
固定負債	
地方債	地方公共団体が発行した地方債のうち、償還予定が 1 年超のもの
長期未払金	自治法第 214 条に規定する債務負担行為で確定債務とみなされるもの及びその他の確定債務のうち流動負債に区分されるもの以外
退職手当引当金	原則期末自己都合要支給額(負担金支出により計上しない)
損失補償等引当金	履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体財政健全化法上、将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上します。
その他	上記以外の固定負債

流動負債	
1 年内償還予定 地方債	地方公共団体が発行した地方債のうち、1 年以内に償還予定のもの
未払金	基準日時点までに支払義務発生の原因が生じており、その金額が確定し、または合理的に見積もることができるもの
未払費用	一定の契約に従い、継続して役務の提供を受けている場合、基準日時点において既に提供された役務に対して未だその対価の支払を終えていないもの
前受金	基準日時点において、代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていないもの
前受収益	一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ提供していない役務に対し支払を受けたもの
賞与等引当金	基準日時点までの期間に対応する期末手当・勤勉手当及び法定福利費
預り金	基準日時点において、第三者から寄託された資産に係る見返負債
その他	上記以外の流動負債

2. 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、民間企業の損益計算書にあたるもので、行政運営にかかったコストのうち、例えば人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに要したコストを表したものです。また、実際に現金の支出を伴うサービスのほかに、減価償却費や退職手当引当金などの現金支出を伴わないコストまでを含んで表しています。

さらに、その行政サービスの提供に対する直接の対価である使用料や手数料といった受益者負担がどの程度あったかを把握することができます。

経常費用と経常収益の差額である純経常行政コストは、受益者負担以外の市町村税や地方交付税、国庫支出金・県支出金などで賄わなければならないコストを表すこととなります。

こうしたコストを把握することは、町の内部的には行政活動の効率性につながり、また、単年度の資産形成支出の多寡にのみ着目せず、長期的なコスト意識を醸成することにもつながるものと考えられます。さらにこれらのコストに対し、使用料等の住民負担がどうであったかを明らかにすることもできます。

(1) 令和元年度行政コスト計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

行政コスト計算書		単位：千円	
	一般会計等	全体	連結
経常費用	6,781,713	10,255,622	11,099,638
1.業務費用	4,756,271	6,892,424	7,105,888
(1) 人件費	1,584,895	2,428,218	2,460,371
(2) 物件費等	3,109,202	4,237,514	4,400,192
(3) その他の業務費用	62,174	226,692	245,325
2.移転費用	2,025,442	3,363,198	3,993,750
経常収益	539,263	1,617,552	1,700,176
1.使用料及び手数料	210,664	1,153,130	1,217,534
2.その他	328,599	464,422	482,642
純経常行政コスト	6,242,449	8,638,070	9,399,462
臨時損失	0	13,794	13,794
臨時利益	34	42,611	42,611
純行政コスト	6,242,416	8,609,254	9,370,645

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等と全体を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- 移転費用の差額1,337,756千円
 - ・・・補助金等の差額2,244,707千円及び、会計間の繰入金の相殺△934,650千円。会計別の補助金等の内訳は主に以下の通りです。
- | | |
|------------|-------------|
| 国民健康保険特別会計 | 1,103,941千円 |
| 介護保険特別会計 | 946,240千円 |

全体と連結を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- 移転費用の差額 630,552 千円
 - ・・・主に補助金等の差額 913,970 千円及び、連結対象団体間の負担金取引の相殺△283,450 千円。補助金等の差額については、主に東京都後期高齢者医療広域連合分 910,381 千円によるもの。

(2) 一般会計等行政コスト計算書の2期比較

行政コスト計算書	単位：千円		
	R1年度	H30年度	差額
経常費用	6,781,713	6,261,343	520,369
1.業務費用	4,756,271	4,258,611	497,660
(1) 人件費	1,584,895	1,329,929	254,966
(2) 物件費等	3,109,202	2,864,169	245,033
(3) その他の業務費用	62,174	64,513	△ 2,339
2.移転費用	2,025,442	2,002,732	22,710
経常収益	539,263	376,523	162,740
1.使用料及び手数料	210,664	219,806	△ 9,142
2.その他	328,599	156,717	171,882
純経常行政コスト	6,242,449	5,884,820	357,629
臨時損失	0	—	0
臨時利益	34	—	34
純行政コスト	6,242,416	5,884,820	357,595

※表示金額は千円単位となっており四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の平成30年度と令和元年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 人件費の増加254,966千円
 - ・・・退職手当引当金の取崩しが大きく、繰入金が増加した影響によるもの。
- 物件費等の増加245,033千円
 - ・・・主に学校施設の長寿命化計画に係るもの。

用語解説

経常費用	
業務費用	
人件費	職員給与費や賞与等引当金繰入額、退職手当引当金繰入額など
物件費等	職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費(消費的性質)、施設等の維持修繕にかかる経費や減価償却費など
その他の業務費用	支払利息、徴収不能引当金繰入額、過年度分過誤納還付
移転費用	住民への補助金や生活保護費などの社会保障費、特別会計への資金移動など
経常収益	
使用料及び手数料	財・サービスの対価として使用料・手数料の形で徴収する金銭
その他	過料、預金利子など
臨時損失及び臨時利益	
臨時損失	資産除売却損など
臨時利益	資産売却益など

3. 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産が1年間でどのような要因で増減したかを表すもので、本年度純資産残高は貸借対照表の純資産合計と一致します。

行政コスト計算書には計上されていない、市町村税、国・都等からの補助金等が本表の財源に計上されています。また、「純行政コスト」の額が、行政コスト計算書の純行政コスト（「経常費用－経常収益＋臨時損失－臨時収益」）をまかなうもので、金額は一致します（純資産変動計算書上はマイナス要因です）。

(1) 令和元年度純資産変動計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

純資産変動計算書

単位：千円

	一般会計等	全体	連結
前年度末純資産残高	19,647,079	21,456,502	22,980,502
純行政コスト	△ 6,242,416	△ 8,609,254	△ 9,370,645
財源	6,707,811	9,064,438	9,816,507
(1) 税込等	4,019,384	4,945,738	5,296,873
(2) 国県等補助金	2,688,427	4,118,700	4,519,634
本年度差額	465,395	455,185	445,862
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	△ 303	2,097	2,097
他団体出資等分の増加	—	—	—
他団体出資等分の減少	—	—	—
比例連結割合変更に伴う差額	—	—	7,991
その他	△ 146	1,970	9,036
本年度純資産変動額	464,946	459,252	464,986
本年度純資産残高	20,112,025	21,915,754	23,445,488

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

本町の一般会計等において、純行政コスト6,242,416千円に対し財源は6,707,811千円であり、本年度差額は465,395千円のプラスになっております。当該差額は貸借対照表の純資産に充当され、返済不要な財源の蓄積となります。前年度末時点の固定資産台帳の誤差を補正したもの（実施が無かった工事の建設仮勘定等）であり、当該金額は純資産の減少分となります。

一般会計等と全体を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- 純行政コストの差額2,366,838千円
 - ・・・行政コスト計算書で記載の通り、主に補助金等の差額2,244,707千円及び、会計間の繰入金の相殺△934,650千円。

- 国県等補助金の差額1,430,273千円

・・・主な内訳は以下の通りです。

国民健康保険特別会計 840,445千円

介護保険特別会計 407,853千円

全体と連結を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- 純行政コストの差額761,391千円

・・・行政コスト計算書で記載の通り、主に補助金等の差額913,970千円及び、連結対象団体間の負担金取引の相殺△283,450千円。

- 財源の差額752,069千円

・・・主に東京都後期高齢者医療広域連合分932,622千円及び、連結対象団体間の負担金取引の相殺△283,450千円。

(2) 一般会計等純資産変動計算書の2期比較

純資産変動計算書

単位：千円

	R1年度	H30年度	差額
前年度末純資産残高	19,647,079	18,917,743	729,336
純行政コスト	△ 6,242,416	△ 5,884,820	△ 357,595
財源	6,707,811	6,615,028	92,783
(1) 税込等	4,019,384	3,886,753	132,631
(2) 国県等補助金	2,688,427	2,728,276	△ 39,848
本年度差額	465,395	730,208	△ 264,813
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	△ 303	0	△ 303
その他	△ 146	△ 872	726
本年度純資産変動額	464,946	729,336	△ 264,390
本年度純資産残高	20,112,025	19,647,079	464,946

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の平成30年度と令和元年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 純行政コストの増加357,595千円

・・・行政コスト計算書に記載の通り、人件費・物件費等の増加によるもの。

- 税込等の増加132,631千円

・・・主に地方交付税の増加97,835千円

用語解説

前年度末純資産残高	前年度末の純資産の額(前年度貸借対照表と一致)
純行政コスト	行政活動に係る費用のうち、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに係る費用
税金等	地方税、地方交付税、地方譲与税など
国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金など
資産評価差額	有価証券等の評価差額
無償所管替等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
その他	上記以外の純資産の変動(調査判明の資産など)

4. 資金収支計算書

資金収支計算書は、単年度の資金の収支を表し、1年間の資金の増減を業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支の3区分にわけ、どのような活動に資金が必要であったかを示しています。また、本年度末現金預金残高は、貸借対照表の資産の現金預金の金額と一致します。

業務活動収支は、日常の行政サービスを行う上での収支を表しています。投資活動収支は、資産形成に関する収支を言います。財務活動収支とは、地方債等の借入や償還に関する収支を言います。

(1) 令和元年度資金収支計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

資金収支計算書

単位：千円

	一般会計等	全体	連結
業務活動収支	859,941	1,101,145	
1.業務支出	5,347,812	8,287,025	
2.業務収入	6,207,753	9,346,556	
3.臨時支出	—	100	
4.臨時収入	—	41,714	
投資活動収支	△ 446,173	△ 487,199	
1.投資活動支出	1,332,349	1,604,339	
2.投資活動収入	886,176	1,117,140	
財務活動収支	△ 368,496	△ 396,747	
1.財務活動支出	697,639	996,443	
2.財務活動収入	329,143	599,696	
本年度資金収支額	45,272	217,199	214,536
前年度末資金残高	130,512	848,163	881,818
比例連結割合変更に伴う差額	—	—	1,226
本年度末資金残高	175,785	1,065,362	1,097,579

前年度末歳計外現金残高	27,100	27,100	27,203
本年度歳計外現金増減額	27,384	27,384	27,355
本年度末歳計外現金残高	54,485	54,485	54,558
本年度末現金預金残高	230,269	1,119,847	1,152,137

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の業務活動収支は859,941千円のプラスとなっています。一方、投資活動収支は446,173千円のマイナスとなっています。また、財務活動収支は地方債の償還支出が発行収入を上回り、368,496千円のマイナスとなっています。この結果、本年度資金収支額は45,272千円のプラスとなりました。

一般会計等と全体を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- 業務支出の差額2,939,213千円
 - ・・・主に国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計の補助金等、並びに病院事業会計の各種業務費用によるもの。
- 業務収入の差額3,138,803千円
 - ・・・主に国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計の財源、並びに病院事業会計の入院・外来収益によるもの。

なお、『統一的な基準』に基づき、連結の資金収支計算書の内訳は作成していません。

(2) 一般会計等資金収支計算書の2期比較

資金収支計算書		単位：千円	
	R1年度	H30年度	差額
業務活動収支	859,941	1,148,444	△ 288,503
1.業務支出	5,347,812	5,114,711	233,101
2.業務収入	6,207,753	6,263,155	△ 55,402
3.臨時支出	—	—	—
4.臨時収入	—	—	—
投資活動収支	△ 446,173	△ 916,728	470,555
1.投資活動支出	1,332,349	1,594,931	△ 262,583
2.投資活動収入	886,176	678,203	207,973
財務活動収支	△ 368,496	△ 243,304	△ 125,191
1.財務活動支出	697,639	670,078	27,560
2.財務活動収入	329,143	426,774	△ 97,631
本年度資金収支額	45,272	△ 11,589	56,861
前年度末資金残高	130,512	142,101	△ 11,589
本年度末資金残高	175,785	130,512	45,272
前年度末歳計外現金残高	27,100	27,296	△ 195
本年度歳計外現金増減額	27,384	△ 195	27,580
本年度末歳計外現金残高	54,485	27,100	27,384
本年度末現金預金残高	230,269	157,612	72,657

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の平成 30 年度と令和元年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 業務支出の増加233, 101千円
 - ・・・主に学校施設の長寿命化事業等、物件費支出の増加201, 963千円。
- 投資活動支出の減少△262, 583千円
 - ・・・主に基金積立金支出の減少△293, 000千円。
- 投資活動収入の増加207, 973千円
 - ・・・主に固定資産形成に係る国県等補助金収入の増加207, 973千円。

用語解説

業務活動収支	
業務支出	人件費支出、物件費等支出、支払利息支出など
業務収入	税込等収入、国県等補助金のうち業務支出の財源に充当した収入、使用料及び手数料収入など
臨時支出	災害復旧事業費支出など
臨時収入	臨時にあった収入
投資活動収支	
投資活動支出	公共施設等整備費支出、基金積立金支出、投資及び出資金支出、貸付金支出など
投資活動収入	国県等補助金のうち投資活動支出の財源に充当した収入、基金取崩収入、貸付金元金回収収入、資産売却収入など
財務活動収支	
財務活動支出	地方債償還支出など
財務活動収入	地方債発行収入など

IV.参考資料

1. 一般会計等財務書類 4 表

一般会計等貸借対照表

令和2年3月31日 現在

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	26,176,752	固定負債	6,986,552
有形固定資産	23,233,372	地方債	5,759,022
事業用資産	18,474,626	長期未払金	-
土地	2,094,623	退職手当引当金	1,227,530
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	27,585,627	その他	-
建物減価償却累計額	△ 11,925,736	流動負債	833,195
工作物	729,626	1年内償還予定地方債	694,511
工作物減価償却累計額	△ 60,324	未払金	386
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	83,813
航空機	-	預り金	54,485
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	7,819,748
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	50,810	固定資産等形成分	27,692,252
インフラ資産	4,574,716	余剰分(不足分)	△ 7,580,227
土地	33,613		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	27,607,898		
工作物減価償却累計額	△ 23,098,013		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	31,217		
物品	560,071		
物品減価償却累計額	△ 376,041		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	2,943,379		
投資及び出資金	473,694		
有価証券	37,154		
出資金	436,540		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	21,346		
長期貸付金	-		
基金	2,451,057		
減債基金	-		
その他	2,451,057		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 2,718		
流動資産	1,755,021		
現金預金	230,269		
未収金	10,649		
短期貸付金	-		
基金	1,515,500		
財政調整基金	1,304,000		
減債基金	211,500		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 1,397	純資産合計	20,112,025
資産合計	27,931,773	負債・純資産合計	27,931,773

一般会計等行政コスト計算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	6,781,713
業務費用	4,756,271
人件費	1,584,895
職員給与費	1,003,117
賞与等引当金繰入額	83,813
退職手当引当金繰入額	309,182
その他	188,783
物件費等	3,109,202
物件費	1,936,017
維持補修費	53,764
減価償却費	1,119,421
その他	-
その他の業務費用	62,174
支払利息	38,423
徴収不能引当金繰入額	4,115
その他	19,636
移転費用	2,025,442
補助金等	661,584
社会保障給付	453,044
他会計への繰出金	908,242
その他	2,573
経常収益	539,263
使用料及び手数料	210,664
その他	328,599
純経常行政コスト	6,242,449
臨時損失	0
災害復旧事業費	-
資産除売却損	0
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	34
資産売却益	34
その他	-
純行政コスト	6,242,416

一般会計等純資産変動計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目	合計		
		固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	19,647,079	27,564,859	△ 7,917,780
純行政コスト(△)	△ 6,242,416		△ 6,242,416
財源	6,707,811		6,707,811
税金等	4,019,384		4,019,384
国県等補助金	2,688,427		2,688,427
本年度差額	465,395		465,395
固定資産等の変動(内部変動)		127,842	△ 127,842
有形固定資産等の増加		1,145,149	△ 1,145,149
有形固定資産等の減少		△ 1,120,717	1,120,717
貸付金・基金等の増加		202,311	△ 202,311
貸付金・基金等の減少		△ 98,899	98,899
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	△ 303	△ 303	
その他	△ 146	△ 146	-
本年度純資産変動額	464,946	127,393	337,553
本年度末純資産残高	20,112,025	27,692,252	△ 7,580,227

一般会計等資金収支計算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	5,347,812
業務費用支出	3,322,370
人件費支出	1,275,298
物件費等支出	1,989,781
支払利息支出	38,423
その他の支出	18,868
移転費用支出	2,025,442
補助金等支出	661,584
社会保障給付支出	453,044
他会計への繰出支出	908,242
その他の支出	2,573
業務収入	6,207,753
税収等収入	4,024,723
国県等補助金収入	1,879,782
使用料及び手数料収入	211,583
その他の収入	91,665
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	859,941
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,332,349
公共施設等整備費支出	1,145,149
基金積立金支出	161,000
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	26,200
その他の支出	-
投資活動収入	886,176
国県等補助金収入	808,645
基金取崩収入	50,001
貸付金元金回収収入	26,200
資産売却収入	1,330
その他の収入	-
投資活動収支	△ 446,173
【財務活動収支】	
財務活動支出	697,639
地方債償還支出	697,639
その他の支出	-
財務活動収入	329,143
地方債発行収入	329,143
その他の収入	-
財務活動収支	△ 368,496
本年度資金収支額	45,272
前年度末資金残高	130,512
比例連結割合の変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	175,785
前年度末歳計外現金残高	27,100
本年度歳計外現金増減額	27,384
本年度末歳計外現金残高	54,485
本年度末現金預金残高	230,269